

設計段階で食い込み大規模VODを受注

ソリトンシステムズは、従来から取り組んできたブロードバンドサービスのネットワークインフラ構築に加え、新たにVOD(ビデオデ・オン・マンド)システム構築にも参画。ビジネスモデル設計の段階から食い込むことで、ISP、CSP事業者の新規サービスの立ち上げを推進している。

急速に伸びるADSL、FTTHなどのブロードバンドサービスと歩調を合わせて拡大しているのがブロードバンドインフラの構築ビジネスである。ソリトンシステムズでは、この市場をいち早く捉え、サービス事業者の競争力強化やメニューの付加価値化を図るネットワーク構築ソリューションを手がけている。

では、どのようなソリューションに商機があるのか、ビジネスのポイントは何か。ソリトンのブロードバンドネットワーク構築の取り組みを探ってみた。

同社が手がける領域をバックボーン構築、ネットワークアクセス環境の整備、VOD(Video On Demand)を中心にしたコンテンツ配信システム構築の3つに分類し、それぞれの動向を見ていこう。

広帯域化で地域IXが進展

は、インターネットの基幹網を構

築するもの。その1プロジェクトとして手がけたのが秋田地域IX(インターネット・エクスチェンジ)の構築である。

IXとは、ISP事業者の同士を接続できるポイントである。従来、IXは一度国内のトラフィックを集めて米国など海外とのネットワーク接続用途で使われていたこともあって、国内ではトラフィックが集中する東京・大阪に設置されていた。しかし、昨今のインターネットの普及によって、地方でもインターネットユーザー数と共にトラフィックが拡大しており、このトラフィックに対応するためにネットワークを敷設すると、ISP事業者は大きなコスト負担を強いられることになってきたのである。この解決策として、地域のISP同士が地域IXに接続し、共同で大都市圏まで広帯域のネットワークを整備するという動きが出てきている。その1つが、秋田地域IXである。ADSLの普及によって安価で広帯域



ソリトンシステムズ
IPソリューション部
仲舘 覚 部長

のアクセス回線を利用できるようになった一方で、インターネットに接続するため上位のISPやキャリアに接続する料金は依然高額という事情もあり、この格差を解消できる地域IXが注目されているわけだ。

安定化進むVDSL機器

のアクセスネットワーク構築とは、ADSLモデム、DSLAM(デジタル加入者回線アクセス多重化装置)の導入・設置・運用といったxDSL事業者向けビジネスや、CATV事業者を対象にしたインターネットアクセス用ヘッドエンドの導入・運用に関わるビジネスなどがある。いわゆる、ネットワークの「ラストワンマイル」に関わる分野だ。ソリトンにとっては、ブロードバンド関連で最も実績のある分野である。

また、構内用途では、ソリトンでは約3年前からVDSLの技術にも着目し、ホテルなどを対象とする高速インターネット接続ソリューションとして、機器を各部屋に導入しインターネット常時接続環境を整備してきた。しかし、当時のVDSLはまだ新しい技術であったため、通信が不安定なるなどトラブルが発生したこともあり、大きな伸びはなかったという。その後、

VDSLの技術が成熟し、多くのベンダーが高速で安定した機器を発売してきたことから、VDSL機器のビジネスも着実に実績が上がっている。

LEO-NET構築プロジェクトに参画

の分野では、レオパレス21のVODに対応した「LEO-NET」のネットワーク構築プロジェクトに参画したことが挙げられる。レオパレス21では、運用を手がけるマンション、アパート、ホテルなどに対し、インターネット接続、VOD型のコンテンツ配信、CS放送のコンテンツを配信するサービス「LEO-NET」を提供。このネットワーク構築において、ソリトンではVDSLモデム、STBの設置など、宅内側の機器導入・運用を手がけている。LEO-NETのセッットップボックスの規模はインストールベースで数万台ということから、おそらく世界最大の規模のVODといえよう。バックボーンネットワークや配信サーバーの構築は、NTTコミュニケーションが担当しており、LEO-NETのネットワーク構築はVOD分野の一大プロジェクトとなっている。

従来、VODの市場はインタラクティブ性を備えたコンテンツ配信サービスとして多くの事業者から注目されてきたものの、配信するコンテンツが揃わず普及していなかった。しかし、LEO-NETは、オンラインレンタルビデオサービスなどコンテンツが豊富である。これは、クローズドなネットワーク上でコンテンツを配信するため、インターネット上に比べデータを複製されたり不正利用されるというリスクが少ないという点や、

数万というユーザー規模を高く評価した多くのコンテンツホルダーと提携が一気に進んだためだろう。

さらに、LEO-NETでは新メニューとして今年夏にはIP電話のサービスを提供することから、ソリトンではVoIPゲートウェイの導入なども進めているという。

IPソリューション部の仲舘覚部長は、「大規模のVODシステムを手がけたことで、様々なノウハウを得ることができた。この経験を生かしたコンテンツ配信のビジネスを拡大していきたい」という。

光ファイバー使った新商品も

また、ソリトンでは、光ファイバーを活用しインターネット接続、動画配信、電話サービスなどマルチメディアデータの配信に対応した新しいネットワーク構築ビジネスを始めている。これを実現するのが、スエーデンのベンチャー企業であるパケットフロント社のネットワーク機器である。このシステムは、宅内に設置する「CPS200」と、光ファイバーネットワークを構築できる「ASR4000」、ネットワークの運用を行うソフト「BECS」で構成。サービス事業者は、CPSに搭載されている複数のポートに、電話、インターネットアクセス、動画コンテンツなどのサービスを割り当てて、様々なサービスを容易に提供可能。

19インチラックサイズのASR4000をマンションの機械室などに設置し、そこから各部屋に置くCPS200に接続。ASR同士は光ファイバーで接続することで高速なネットワークを構築



マンション設置を考慮ファンレス構造になっている「ASR4000」



各部屋に設置する「CPS200」。電話、テレビ、インターネットアクセスに対応したRJ45のポートを用意しており、QoS確保にも対応



ネットワーク管理から加入者管理まで対応できる「BECS」。API経由で既存の課金システムとも連携可能

できる。さらに、BECSを活用することで、ネットワークの保守からサービスや加入者の管理も可能だ。

ターゲットユーザーについては、光ファイバーを持つサービス事業者である。インタラクティブ性のあるVODサービスの導入を考えているCATV事業者や、電力系の地域キャリアなどを想定している。

また、地域の活性化の一環としての光ファイバーのソリューションも考えている。町村レベルの情報化の取り組みとして、地方自治体に導入してもらい、町全体にサービスを提供するという提案も進めている。

仲舘部長は、「光ファイバーを活用したネットワーク構築ビジネスは、始まったばかりである。ビジネスモデル構築の段階から顧客と共に考えて、システムを提供していきたい」と話している。

図 ソリトンシステムズのブロードバンドインフラビジネス

コンテンツ配信システム構築

セッットップボックス設置からサーバー構築まで。
LEO-NET構築プロジェクトでは、宅内側のシステム構築を手がける

バックボーンネットワーク構築

大規模ネットワークでは、
地域IXの構築を手がけている

ネットワークアクセス回線の構築

xDSL事業者に対しモデムを提供。
システム設計から運用まで